

令和4年度の取り組み報告(中間報告)

子ども・若者応援基金は、令和3年4月に設置され、令和4年からは一部助成事業がスタートしました。現在、子ども・若者の経験・体験を応援するプログラムとして、個人チャレンジ助成、プログラミングチャレンジの2つの助成事業が進行中です。

今回はそれら2つのプログラムにつきまして現況のご報告をさせていただきます。

(2022.8月末時点)



令和4年度の個人チャレンジ助成では、1名の女の子がプログラムにチャレンジしています。イラストレーターと心理ケアの専門家という2つの夢を持ち、助成金を使って体験を重ねています。

- (1) チャレンジ名：夢絵師（ゆめえし）プロジェクト
- (2) 参加者：小学6年生 児童
- (3) 実現したい夢（現時点）：①イラストレーター
②子どもの心のケアをする仕事
- (4) 基金の使い道：イラスト機材購入、交通費、展覧会入場料 ほか
- (5) 取組内容：①イラストレーターを目指す上での画力のレベルアップ、発信
②心理ケアの仕事、必要な資格などを知る
- (6) 協力機関：①東京家政大学造形表現学科
②日本女子大学 社会連携教育センター附属心理相談室

将来の夢①「夢絵師（ゆめえし）」

小学校1年生から続けているイラスト制作、発信について、大学訪問や展覧会、美術展への参加を通して、イラストレーター（夢絵師）になるために必要なスキルの習得や感性を磨きます。大学訪問では社会福祉協議会の職員も同行し、一緒にお話を伺いました。



現在手書きで描いているものを、デジタルイラストという形にして、学びを深め、多くの人の目に留まるようにしたいと考えています



社会福祉協議会の職員と定期的に打合せを行い、効果的なプログラム実施を進めます



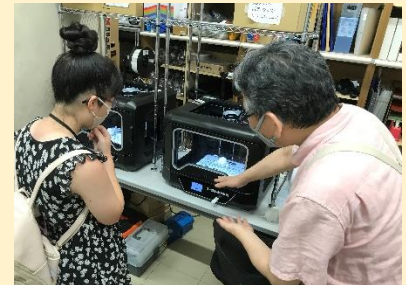
東京家政大学造形表現学科への訪問し宮本先生、村田先生からお話を伺いました



学生が作るデニムの作品の見学



小学校とは違う広い大学の構内に驚きました



初めて見た3Dプリンター

将来の夢②「子どもの心理ケアの仕事」

夢絵師と同時に、子どもの心のケアを行う職業にもなりたいと考えており、大学訪問より、教員や大学院生から話を聞き、心理ケアの仕事とはどのようなものなのか、どうすれば職業として就くことが出来るのか、やりがいや、必要な資格について参加するお子さんが調べました。また、前述の「夢絵師」と絡め、イラストが得意であることから、絵の力を心のケアに生かすためのエッセンスについても大学でヒアリングをさせていただきました。

大学でのインタビュー内容（一例）

① 大学院生

- ・心理の勉強をしたかったきっかけ
- ・将来就きたいと考えている仕事
- ・参加する子どもへのアドバイス
- ・アートが心理ケアに繋がるのか（アートが与える力）

② 心理支援室長（教員）

- ・心理ケアの仕事とは
- ・子どもの心理ケアで大切な事
- ・どのようにすれば必要な資格が取れるのか



日本女子大学の堀江先生たちと

【年間スケジュール】

プログラム
検討

大学訪問

イラスト等
の学び

美術館等
訪問

中間報告
取組まとめ

ワーク
シヨップ参加

成果発表
準備

年間の
成果発表

- ・東京家政大学(イラスト)
- ・日本女子大学(心のケア)

- ・ポローニャ絵本館
- ・三鷹の森ジブリ美術館
- ・各展覧会
- ・各美術館

- ・ワークキャンプ
- ・卒業制作展

- ・1年間の制作物や、大学等の訪問で学んだこと、感じたことを発表

プログラミングチャレンジ

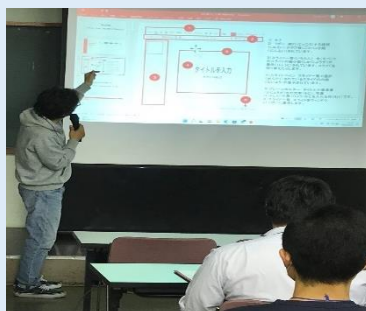
長年シリコンバレーでIT企業を経営されてきた坂本氏より、地域の子どものために何かできないかと提案をいただき、ボランティア仲間づくりから始まったプログラムです。当会の広報誌「きたふくし」で協力者募集をしたところ、あっという間に日本を代表するエンジニアの方をはじめとするボランティアチームによる講座ができ上がりました。基金を財源にPCやその他必要なものを購入し、事前に面談をした12名の小学生が取り組んでいます。また、実施に当たってはNECプロボノ倶楽部より、NEC社員20名のボランティアスタッフも加わって子ども達の学びを支えてくださっています。講師が子ども達に普段の仕事（宇宙開発や世界一のスーパーコンピューターの開発など）の話聞かせてくれ、目をキラキラさせながら話を聞く場面も見られました。

- (1) チャレンジ名：プログラミングチャレンジ
- (2) 参加者：小学4～6年生の児童12名
- (3) 基金の使い道：PC、周辺機器の購入、教材費用 ほか
- (4) 取組内容：週1回1年間の分かりやすいプログラミング講座

協力機関：地域ボランティアの方
NECプロボノ倶楽部



講座開始までに何度も打合せを行いました



毎講座子どもたちが楽しく取り組むことが出来るように工夫されています



初めてパソコンに触れるお子さんもいましたが、どんどん吸収していきます



初めは緊張していた子どもたちも、今ではすっかり打ち解けて…



出来ないことも視点を変えるなど工夫して解決しています

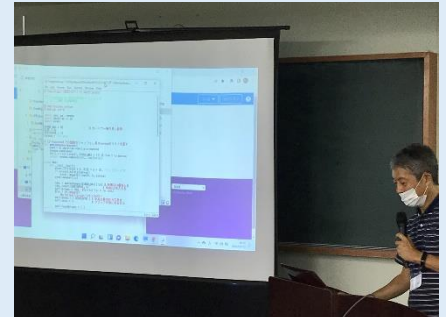


終了後は、スタッフの振り返りも行われています

現在、学校教育の中で行われているプログラミング学習は、「プログラミング的思考」を養うための指導が中心です。

実際にコンピューター言語を教えるわけではなく、論理的な思考を行うトレーニングが中心となっています。これは良くある民間のプログラミング教室で行われている、ビジュアル言語を利用したスクラッチや、ロボット工作プログラミング等もおおむね同様となっています。(一部本格的なプログラミング教室もありますが、月 15,000~30,000 円程度の高額な講座となっています。)

プログラミングチャレンジでは、PC の基本操作から始まり、インターネットリテラシー教育 (インターネットの安全な使い方等)、ビジュアル言語へと進み、最終的にはプロのエンジニアが組み込み開発、WEB アプリケーションなどの開発に使っている Python (パイソン) を学習することまでを目標としています。



校長の坂本さんのアメリカ土産をかけて、ビンゴ大会も行われました。もちろんただのビンゴ大会になるはずもなく、ビンゴのプログラミングは講師が作成し、どのようなプログラムか解説してくださっています。



それぞれのお子さんの進捗に併せてサポートしていただいています

時にはロボットを使ったデモもしていただき、子どもたちも大いに刺激になっているようでした

【年間スケジュール】



お問合せ

社会福祉法人北区社会福祉協議会

子ども・若者応援基金担当

電話:03-3906-2352

e-mail:kodomo@kitashakyo.or.jp



基金紹介ページ(北社協 HP)

